

Title	Andrew D. White: Seven great statesmen
Sub Title	
Author	田中, 萃一郎
Publisher	三田学会
Publication year	1911
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.5, No.1 (1911. 1) ,p.116- 117
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19110115-0116

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

得らるゝ最良の制度を設立せんと試むるなり、又彼れ正道を立つる事能はざりし時は邪道を改むるを蔑卑せざるなりとは之れアダム、スミスの言なり、吾人は國民生活に於て一興一衰は免るべからざる數なり而して國民生活に於ては一世紀は之れ實に一瞬時に過ぎざるなり。(完)

以上はエコノミツク、シヨール所載ニコルソン教授の論文を抄譯せるものなり

新 著 紹 介

Andrew D. White: Seven Great States men.

アンドルー、ヂツクソン、ホワイトは千八百三十二年の出生にしてエール卒業後、歐洲に負ひて巴里伯林の大學に學び、ミシガン大學史學教授より轉じて新設コーネル大學總長となり、傍ら近世史の講座を受持ち、晩年公使又は大使としてペテルに伯林に駐劄し、海牙の平和會議にも列席したる知名の士にして、現に米國史學會々頭たり、科學神學衝突史并に自傳等の著作は著者の學殖と閱歷とを後昆に傳ふるに足る可きものなるが、昨年十月發行の「七大經世家」も亦優にこれらの著作と比肩するを得可し。

「七大經世家」のうちビスマークは著書の米國公使として親しく往來せるところカヴールには會見の機會なかりしと云ふも深くその人物性格事業を研究せしもの、如く、兩偉人の月旦は本書のうちにありて殊に興味饒きものあり、チュルギーとスタインとの事蹟の如き假令一は失敗に了り、一は成功を告げたりと雖も、これ勿論大局の上より下せる評論にして仔細にその經歷を比較する時は類

道理と戦へると云へり、苟くも背理を排して人道の爲めに盡さんとする獨立の士は本書に依りて益々その志操を堅實ならしめんことを努めざる可からず。(田中萃一郎)

御 斷

本號論說マクラレン氏の論説は校正の責任書記に有之候間此段御斷申候也。

似の點も亦尠からず、チュルギーの十三年間リモージュ地方を治め、スタインの二十年間ウエスファレン地方に在任せるその治蹟は共に國務大臣の要職を以て酬られたり、チュルギースタイン共に官僚政治家たりと雖もその政見は徒らに官僚社會の利益をのみ圖らんとするが如き狹隘なるものにあらずこの憂國の至誠は巧みに紙上に寫し出されたり。

初めて獨逸語を以て大學の講義を試み、儕輩をして目を側てしめたるトマジウス、國際法の原則を説きて人道の爲に盡瘁したるグロチウス、又相並べ稱すること得可し、その故郷に容れずして亡命の客となりしは相似たれど、トマジウスのハレー大學の創立者として傍ら弊政を匡救し得たるは聊か以て慰む可きも、貞實なる夫人の盡瘁により書物を收めたる箱に藏れて牢獄を脱し、巴里に流寓せる後瑞典に仕へ歸國に際して難船の厄に遭ひ、ロストックに客死せる、グロチウスの一生は實に悲慘なり、然れどもその死後には羅馬法皇政府の逼害を受けて、遺骸の所在をも失はせんとせる、ヴェネチアのサルピの事蹟は「七大經世家」のうちにありて最も深く獨立の學者を感奮せしめずんばならず。著者は本書に冠して「人道」の爲に不